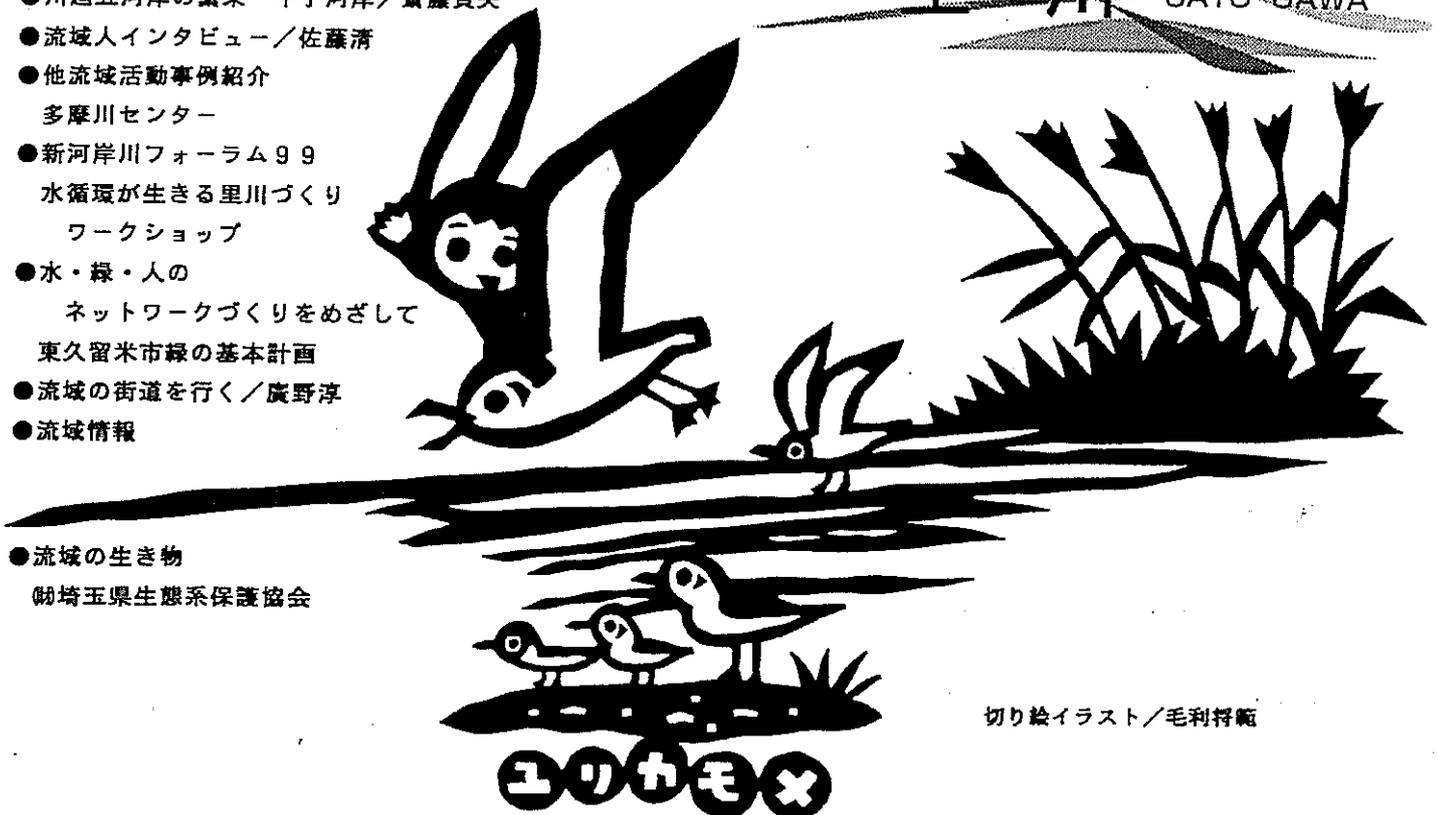


THE SHINGASHI BASIN NEWS

1999(平成11)年3月20日発行/新河岸川流域川づくり連絡会 朝霞事務局/朝霞市朝志ヶ丘3-4-2-201 THE&FAX/048-474-3504

- 川越五河岸の繁栄 牛子河岸/斎藤貞夫
- 流域人インタビュー/佐藤清
- 他流域活動事例紹介
多摩川センター
- 新河岸川フォーラム99
水循環が生きる里川づくり
ワークショップ
- 水・緑・人の
ネットワークづくりをめざして
東久留米市緑の基本計画
- 流域の街道を行く/廣野淳
- 流域情報

里川 SATO GAWA



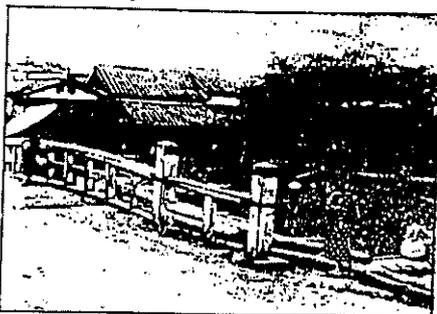
切り絵イラスト/毛利将範

- 流域の生き物
朝霞玉粟生態系保護協会

川越五河岸の繁栄 牛子河岸 斎藤貞夫

牛子河岸は、川越市に合併する前は、入間郡南古谷村牛子と言われていた。河岸場は旭橋を渡った下新河岸の対岸にあり、船問屋は「大嶋屋」(嶋村家)の一軒だけであった。

昭和48年頃から道路拡張工事が行われ、同家では舟運当時の店舗や土蔵が壊されたが、すぐ傍の新居に現在の当主が住んでいる。



牛子河岸へ通ずる旭橋(明治末年)

さて、新河岸川舟運の川越五河岸の中で、今までに一度もこの牛子河岸へは、他の問屋所蔵の文書を通じて知る以外に顧みられなかった。ところが、道路工事で家を取り壊すという情報を耳にした。そこで早速、当主に逢い「何か古文書か舟運に関係したものが見つかったら、是非知らせて下さい」と頼んだ。

そして約3ヶ月程してから再び同家を訪ねると、以前あった土蔵もすっかり無くなり、住宅も半分位しか残っていなかった。土蔵のあった周囲を歩くと、草やぶの中に「文化2年己丑年十一月吉日 金比羅大権元 施主 嶋村岡右衛門」と「天保四年癸己年十一月吉日 稲荷大明神 願主嶋屋氏」の二つの屋敷神が祀ってあった。御主人に面会して、以前頼んでおいたことを告げると、仮住居から何



牛子河岸の屋敷神

か分からないが、古びた風呂敷包と汚れた木箱を取り出して来られ、「中にどんなものがあるか分からないが、良かったらお持ち下さい。」と差し出された。私は御礼もそこそこに、高鳴る鼓動を抑えながら家路へ急いだ。包を解いてみると、虫が喰った独特の臭いのする文書類が期待通り詰っていた。3回ほどこれ等を虫干をしてから、文書の整理にかかった。文

昔を一枚一枚よく丁寧に剥す気持は夏の暑さを忘れさせた。夏休みが終りに近づいた頃、ようやく文書の大別が出来た。昭和52年11月17日朝日新聞埼玉版に「川越に傳説の温泉」はるばる熱海から 地元の船問屋で資料発見 ルートは

荒川一新河岸川?として紹介された。他に牛子河岸旧記などあり、市の指定文化財となっている。

流域人インタビュー

すべてにこだわりたい

テクノプラン建築事務所 佐藤 清

—この建物の下には雨水が溜めてあるそうだが。

コンクリートの槽に60㎡の水が溜まっています。非常用ですが泳ぐことだってできますよ。上は断熱材で、床との間にパイプが何本も通っていて、夏には水を通すと床から涼しさが上がってきます。1年中大体20℃ぐらいなんです。

—この庇には草を植えて、上の屋根からの水を流す予定です。

—この電灯の笠はじょうごですか。

そう。できたものをそのまま使うのはつまらない。例えば洗面台。これなんか頼んで焼いてもらったけれど、T社の製品より安くできました。



名塩紙はベントナイトという泥を漉き込んだもので、美術品の補修などに使われますが、名塩でしかできません。いい地下水がないと駄目。お酒と同じ。これは少し高いが、これを現場にはっています。カタログで見たものではなくて、手芸のものを現場にまた手で貼ってもらいます。手で作ったものというところ高そうに思うけれど、壁紙も、未晒しの手漉きの和紙を使ってもビニールクロスと値段はほとんど変わらないんです。僕

たちはそういうヒントを与えるのが仕事。かといって素人では貼れないから、朝霞に職人さんがいて、彼にやってもらうんです。人間国宝級の人の紙を使っても大した値段じゃありません。

このカーテンの生地はアメリカのオーガニックの綿。農薬も化学肥料も使っていないのは、知っている限りこれだけです。

昔綿の実をとるのに黒人奴隷を使ったのは、綿の実にはトゲがあるから。今は、農業で枯れさせてしまって綿の部分だけを取りますが、これは水を遮断して枯れるのを待って収穫しているんです。一定の幅で1m2000円ぐらい。外国からなので、為替の問題はありますが、安い時は1200円ぐらいで買えます。要は作る方の問題意識。

—何にこだわっているのですか。

全部。こだわることは高いものじゃないということを主張しているんです。自分でやったら、2分の1でできるんじゃないか。こだわっていいものを探し歩くのが好き。作っている人たちは作るという範囲の中でしかやっていないので、ぼくはそれを見てどこに活用できるかを考えるんです。カタログ情報は一切見ていないっていいでしょうね。

大量生産は大量消費が前提だから、大量消費が行き詰まってくれば、手作りす



るしかない。だけど大手メーカーが手作りのものを売るわけにはいかない。手作りは品質が一定じゃないわけで、そうな

るとビッグカンパニーは存続できないわけだから。

作家だとか、面白い人だとか、町の職人がもっているものを建築の中にもう一度集め直せば、そういう品目が10や20じゃないと思います。障子1本作るだけでも3つぐらい面白いことができるんじゃないですか。障子を米粒で作った糊で両側から貼る太鼓障子は断熱効果がすごいんです。こんなものが出てくると日本の板ガラス業界は痛手を食らうでしょう。



—そういうアイテムを30、50と増やしていくと、昔の職人は業種ごとにもすごい数がいたわけだから、そこまでは戻らなくても、途中までは戻れるんじゃないかという気がするんです。それができるようになるには、少しかかるけれども。

—日本の民家ってすごいなあ。

歴史のなかで全部検証されたものなんです。昔のものは何百年かかって生きてきたものだから、今更検証する必要はない。ここ4、50年やってきたことは、いい面もあるでしょうが、やり過ぎた面も。結果として行き過ぎたのでしょうか。これをどう現代に合せた形で戻せるか、太古に戻れといっても戻れないのだから、どこかで戻るきっかけをつくってやらないと。住宅造りはそういう面の一つのチャンスだと思っています。

他流域活動事例紹介

新河岸川流域に隣接する多摩川流域において、市民有志らで設立、JR国分寺駅に近い事務所を拠点に活動している

多摩川センター

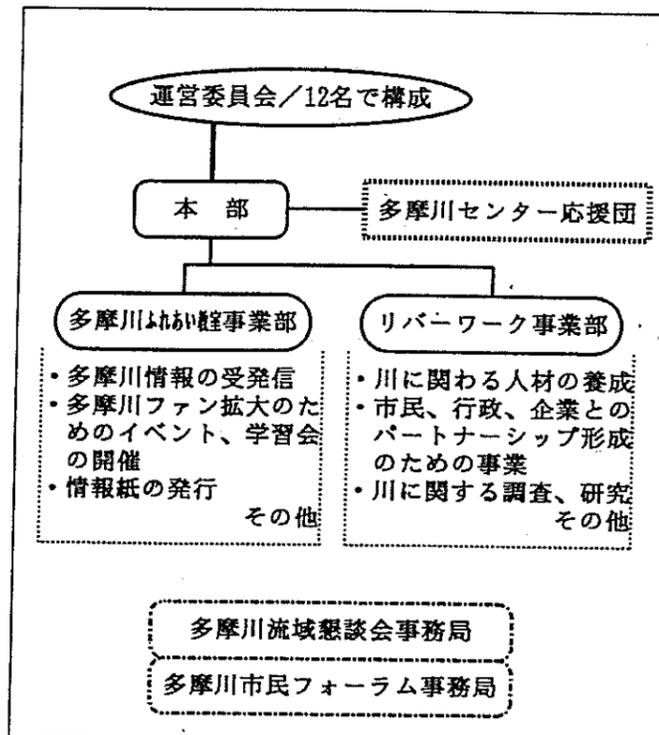
【概要】

「かけがえのない多摩川の自然や文化を次の世代にどう引き継いでいけばいいのか、私たちは考えるだけではなく、行動することに」した市民有志らによって1994年7月、国分寺市において活動をスタートさせた。きっかけは、TAMAらいふ21・多摩東京移管百周年事業で生まれた「多摩川研究会」の提案。現在、建設省京浜工事事務所と連携を図りながら、新たな仕組みである「多摩川流域懇談会」及び「多摩川市民フォーラム」の事務局を担うなど、流域におけるネットワーク活動の拠点として広く認知されつつある。

多摩川流域データ

全長	138 km
面積	1,240 km ²
人口	540 万人
源流	山梨県塩山市
河口	東京都港区、川崎市

【運営方法】



<活動内容>

自主事業

- 多摩川サロンの開催
テーマ別の意見交換の場
- 多摩川セミナーの開催
市民、行政、企業、専門家が立場を越え、多摩川が抱える課題についての話し合いの場
- 多摩川クリーンエイド活動に関わる支援
- 多摩川学校の運営
「多摩川を知る、考える、行動する」をモットーに、フィールドワークを主体とした人材養成の体験講座

受託事業

- 多摩川ふれあい教室
府中市・郷土の森の中にある旧校舎において、多摩川に関する情報提供、フィールドイベントを実施
- その他の調査・研究の受託

主な刊行物

- 多摩川クリーンエイド記録集
- リポート TAMAGAWA
- 多摩川センターリバーニュース
- その他各事業の報告書等

【事務局】

〒185-0021 東京都国分寺市南町 3-23-2 小松ビル3F ☎042-326-5135 FAX042-326-5136 代表; 横山十四男 副代表; 山道省三

【ポイント】

- 市民、企業、流域自治体、学識者、河川管理者などの各主体による「いい川」づくりの議論を通して、ゆるやかな合意形成を図る — 多摩川流域懇談会
- 市民団体間の意見交換や情報の共有、市民の意見を集約して河川行政へ反映させるしくみづくりを目指す — 多摩川市民フォーラム
- 西暦2000年を迎えるにあたって、住民の視点で川の現在の姿を様々な角度から調査、記録し、次代に引き継ぐとともに、川づくり情報として活用していく — 西暦2000年の多摩川を記録する運動(協力事業)

【流域イベント報告～新河岸川流域づくり連絡会総務事務局～】

新河岸川フォーラム99 水循環が生きる里川づくりワークショップ

この数年、河川行政は大きな変革期にあります。

一昨年は河川法の改正が行われ、それまでの治水及び利水という河川管理の原則に、河川環境の整備と保全が加わりました。また、新たな河川整備計画制度が創設され、計画の中に地域の意見を反映することが位置付けられたのです。さらに昨年8月には、建設大臣からの「新たな水循環・国土管理に向けた総合行政のあり方について」の諮問に対し、河川審議会水循環小委員会から中間報告が出されました。この中で、健全な水循環系の形成に向けて

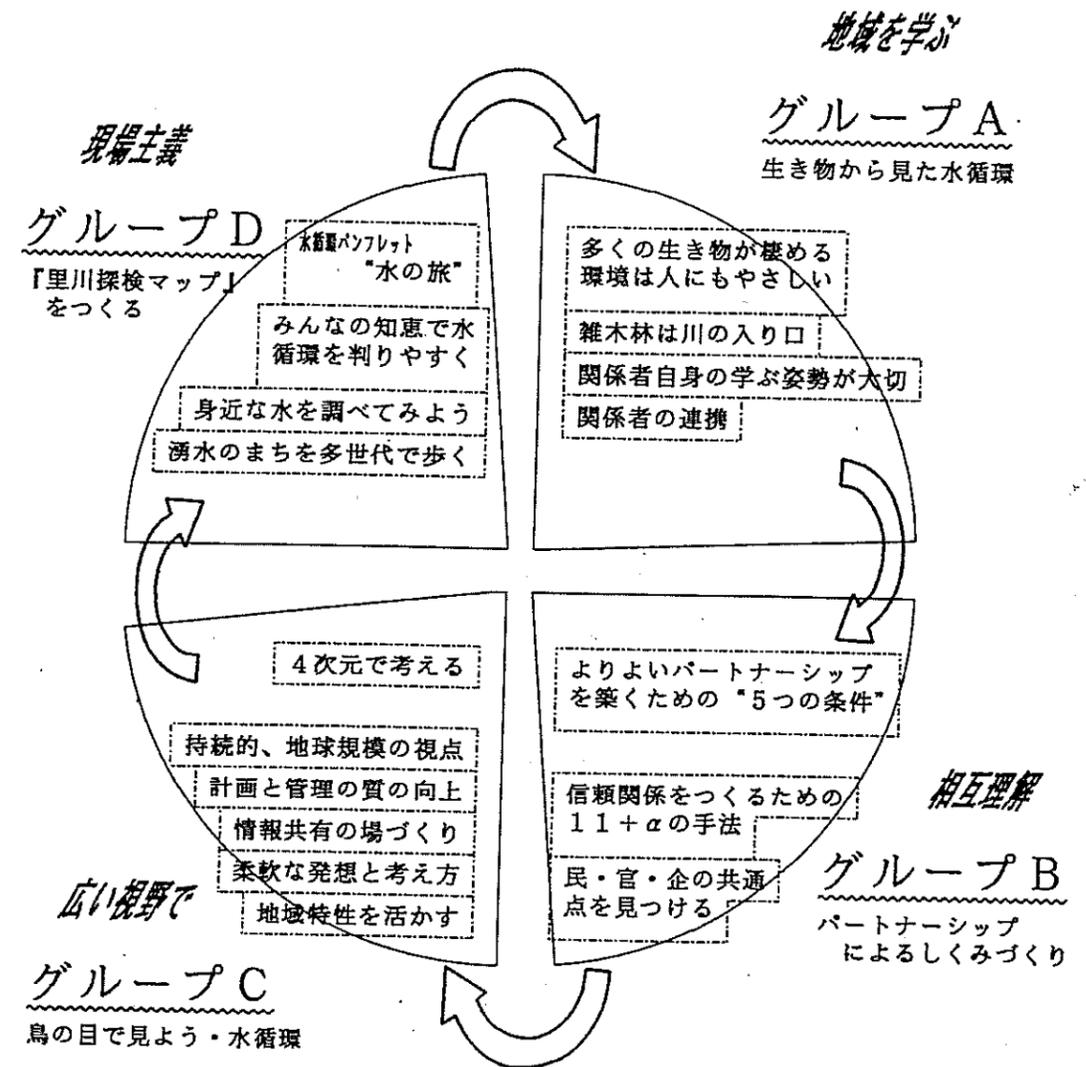
- ①国土マネジメントに水循環の概念の取り入れ
- ②河川・流域・社会の一体的取組み
- ③水循環を共有する圏域毎の課題を踏まえた取組み

重要であるとの基本的な考え方が示されました。そして、圏域毎に関係者による組織を設立し、水循環健全化のための総合的検討、水循環マスタープランの策定等を行い、河川計画をはじめとする各種の計画に反映して、施策を推進する体制が必要である、と提起したのです。

新河岸川流域における総合治水対策の広報活動の一環として、「新河岸川フォーラム」が毎年5月に開催されてきましたが、このような河川行政や社会情勢等の動向を踏まえ、その内容や手法も試行錯誤の中で変化しています。1998（平成10）年度においては、開催日を年明けの99（平成11）年2月13日として、川づくりに関心の高い市民らと、流域の行政関係者を交えてのフォーラムが企画されました。総合治水対策の推進のみならず、健全な水循環系の形成についても、流域の市民や事業者らの理解と協力は不可欠です。今後、より一層の関係者間のコミュニケーションの活性化が求められています。今回のフォーラムは、水循環への理解を深めていくため《水循環が生きる里川づくりワークショップ》がテーマでした。従来のシンポジウム形式に代えて、より活発なコミュニケーションが図れる会議手法として、ワークショップ形式を採用。参加者数は総勢100名でした。ここで話され、作業されたことの中には、よりよい川づくり、健全な水循環系の形成に向けての“ヒント”が、いくつか見え隠れしています。その概要について、以下にまとめてみました。

- 開催日時 1999（平成11）年2月13日（土）
- 開催場所 流域の各地（フィールドワーク）及び和光市サンアゼリア小ホール
- 主催 新河岸川流域総合治水対策協議会
（事務局／建設省関東地方建設局荒川下流工事事務所内）

フォーラムでは参加者を4つのグループに分け、それぞれのテーマに基づいたフィールドワーク、討議や作業を行いました。そこで話された大事なこと（キーワード）を下図にまとめてみました。



4つのテーマの連続性
関係者の連携には相互理解が第一歩、みんなで広い視野で見る視点が大切。それには、現場を見て、歩いて、考えることと、地域を学ぶための判りやすい道具が欠かせない。

水 緑 人

のネットワークづくりをめざして

東久留米市緑の基本計画

昨年9月、約2年に渡って検討されてきた、東久留米市緑の基本計画が策定されました。

私も委員となって関わってきたこの計画の検討経過や成果、特徴、反省点等を交えてご報告いたします。

1 市民の手づくりによる計画

まず、「東久留米市緑の基本計画」策定が特徴的だったのは、多くの市がそうであるように、「座談会」や「懇談会」の様なものを設置するだけの市民参加ではなかったことです。コンサルタント会社への委託もなく、会議の進め方から内容の検討、成文の作成、広報まで全て市民が行うという壮大な試みでした。

そのため、「検討委員会」、「作業部会」、「編集委員会」という3段階の会議は総計54回にものばりました。

委員自らが筆をとり、書き上げたこの計画は、稚拙さがあることはいなめませんが、これに関わった16名の市民の血と汗の結晶として、市でもほとんど手を入れることなく発行されました。

2 キーワードはネットワーク

「豊富な湧水と清流」、「人とみどりが共存した武蔵野の面影」という、今の東久留米らしさを生かし、21世紀のみどりの将来像を

「水循環」や「生物との共生」に配慮して、水とみどりのネットワークがあるまちとしました。

また、市民の手と心をつなぎ合わせてみどりのネットワークづくりを進めるという思いをこめて、水・みどり・人の

ネットワークづくりをめざしてを基本理念としました。

また、川辺を中心として、市民が安全で快適に歩ける散策路ネットワークなども計画しました。

3 緑の基本計画とは何か？から始めて、市内の緑の現況調査を行い、それをまとめるまで約半年、将来像・目標・基本理念・基本方針などを決めるため各自の思いをぶつけ合いそれをまとめるまでに半年、具体的施策の内容の検討で半年、それまで話したことを書物にする文章として書き上げるのに4か月、今考えると気の遠くなるような作業でした。

4 計画の目標に湧水の復活を入れた！

今から15年後の目標数値として、「緑地面積を市域の概ね30%」、「緑被率を40%」などとともに、「市内の湧水か所を40余箇所」に増やすことを入れました。

これは、現在は28か所と言われている湧水か所が昭和40年代には40余箇所あったということで、この復活をめざして、まちづくり、みどりづくりを進めていこう決意をこめて、具体的数値としてあげたものです。

5 「湧水・清流の保全、復活」のために

市民の総意として湧水や清流を大切にしたいまちづくりを行うべく、「湧水・清流保全都市宣言」(仮称)や「湧水・清流保全条例」(仮称)の制定を検討することを計画にいれました。

樹林地や農地など透水地の確保、雨水浸透・貯留事業の推進、調節池の拡大など地下水を増やす仕組みづくりも計画化しました。

その他、多自然型河川改修の推進、ホタル水路の整備、継続的な調査の実施、親水施設の整備など、水辺の自然環境を保全する計画や良好な水辺利用に向けての計画が盛り込まれています。

6 みどりの施策を進める体制づくり

このような行政計画は作った後の施策の推進が往々にしてあいまいになりがちなので、東久留米では「施策を進める体制づくり」も計画の中に入れました。

みどりに関する行政内の関係部署が有機的に施策を進めるための組織(みどりづくり連絡会議：仮称)、みどりに関する様々な市民団体の連絡組織(緑化連絡会議：仮称)、将来は財団化を目指し市民と行政がパートナーシップで運営する組織(みどりの推進組織：仮称)の3つを立ち上げることを計画化しました。

7 おわりに

最初から最後まで市民に任せて計画をつくるという行政の決断もたいしたものでしたが、任された市民も責任の重さに大変でした。

まだまだ、行政も市民も勉強と経験を積み重ねる必要があると感じた緑の基本計画づくりでした。

東久留米ほとけどじょうを守る会 豊福正己

新河岸川の歴史と文化 流域の古社・寺院(3)

出雲神社 廣野 淳

本川の支流のひとつに不老川がある。その最上流に入間市宮寺字南中野地区が広がる。

集落の中を東西に旧青梅街道が走り、三ヶ島地区から約6キロメートルほど西南方向へ行った地点に旧民家が点在する。前面に狭山丘陵が長く伸び、山口貯水池の西端にほど近い丘陵の中腹にひっそりと佇んでいるのが、式内社といわれる出雲神社である。

同社は、宮寺の集落を見下す位置に立し、一の鳥居から社殿まで100メートル程あり、境内は5000平方メートルもあるかと思えるほどの広さを有する。その由緒は社伝によれば、上代において出雲族の出雲祝氏が祖霊を祀ったことがはじまりという。また、鎌倉時代の村山党主頼家の子の宮寺五郎が所領したのがはじまりとする。

しかし、一方で同郡の式内社は毛呂氏の総領守出雲伊波比神社であるとする説もある。その氏神は毛呂町字岩井の地に鎮座し、越辺川の本流と支流の大谷川の間地点に位置する。また森深き、小高い山頂部に平場が造営され、古式豊かな社と伝統を重んずる流鏝馬の馬場は如何も日武尊の創建らしくみえる。しかし、現在の社殿は享禄元年(1528)に毛呂頼繁が再建したもので、本県の最古建築物であり、国の重要文化財に指定されている。いずれにしても、どちらの神社が式内社であるかは真偽のほど今のところ判明せず、共に主張は譲らず、今後も論議は尽きないことであろう。



新 河 岸 川 流 域 情 報

久保川浄化施設

植栽計画への要望が実現予定

ミドリシジミやその類の生息場所になるように、ハンノキやクヌギを主体として、地域の雑木林の植物を草本類に至るまで提案しました。植栽基盤は、雨水が浸透できるように、窪地を作ったり、凹凸になるようにし、いろいろな生き物が、土壌や水の中をも含めた所で豊かになるようにとお願いもしました。施設全体が以前の森に少しでも近づき、水と緑のネットワークのひとつの拠点となって欲しいものです。平成12年3月に完成予定だそうです。

不老川流域川づくり市民の会会報
「川のささやき」から

黒目川が変わる...

黒目川では、下流から行われてきた改修工事が東上線までの区間を終えようとしています。

99年度はいよいよ東上線から上流部の、湧き水が豊富で生態系も比較的豊かなところが対象となります。ここを下流部と同じように土手を高くするだけでなく、流れの真ん中にまっすぐな水路を掘り下げて、水の流れを早くしようというものです。前の改修から40年かけてやっとできた瀬も溜も、ワンドのようになったところも、みんななくなってしまうのです。

土手を高くしても川の中は今のままでというようにはできないのでしょうか。

新河岸川総合治水事務所になんとかならないかと相談に行きましたが、決まったことだからの一点張り、私たちの提案は一考もしてもらえませんでした。

皆さんのところではどうでしょうか。

柳瀬川や同じ黒目川他市の例では、市が積極的に関わろうとしているところでは、市民の提案が受け入れられやすいようです。また、大きなグループの声は聞いてもらいやすいようです。市が県にお任せの朝霞市で、わずかに数人のグループが話し合いたいというのは、どだい無理な話なのでしょう。

来年の今ごろは、ベンチでのんびり日向ぼっこをしているおとしよりや、散歩を楽しむ家族連れの姿は見られないのでしょうか。魚は棲み家を追われ、鳥たちもやってこないのでしょうか。去年の夏大勢いたミスガキたちは、今年も戻ってくるのでしょうか。そして来年は...

朝霞・水の会 藤井

【ツバメ】

柳瀬川流域生態系保護協会
堂本 泰章

春です。だんだん暖かい日が続くようになり、冬の間丸坊主だった落葉樹は、生き生きとした緑の葉っぱを茂らせ始めました。新河岸川周辺でも、春の訪れを

告げるいろいろな生きものたちが姿を見せています。河原の土手ではタンポポやスマリが花を咲かせ、クモやアリといった小さな生きものたちも盛んに動き回っています。暖かくなるにつれて、生きものたちの活動も活発になってきたよう

です。川面では、南の国からやってきたツバメの姿を見かけることが多くなってきました。猛スピードで飛び回るツバメは、えっています。このツバメが、古くから人

間になじみ深い鳥である理由として、真先に思い浮かぶのは、人家の軒先など、人間に近いところに巣を作ることです。では、人に近いところに巣を作るのはなぜでしょうか？人の目の届くところで子育てをするのは、子育て中の危険、つまり天敵であるカラスなどを、人間が追っ払っているからではないかと言われてい

ます。ツバメが暮らす人里の環境は、この20年ほどの間に大きく変わりました。集落の周辺に広がっていた水田や畑といった場所は、次々に宅地化されてきています。見かけた巣の場所に、今年もツバメはやってきています。川や水田、沼、畑といった開けた場所は、エサ場としてだけでなく、巣の材料となる泥を手に入れる

場所としても、大事な場所なのです。その一方で、町中ではツバメの天敵であるカラスが、人間の出した生ゴミなどをエサにして、その数を増やしてきました。こうした変化は、ツバメにとってだんだ

ん暮らしにくい状況になってきているの

でしょう。県内でも、ツバメの巣が少なくなっているという報告がありますが、ツバメは身近な鳥であるわりに、きちんとした記録はあまり多くありません。開けた水辺や田んぼが減ったことと、エサとなる虫の種類や量との関係など、はっきりとしたことはわかっていないのが現状です。

私たちにとって身近な存在であるツバメ。でも、知っているようで、知らないことも多いのではないのでしょうか？昨年



新河岸川流域イベントスケジュール

- 5月15日(土)
柳瀬川ウォーキング・水谷たんぼコース
志木市クラブ中野前 8:00
主催：エコシティ志木
問合せ：048-471-4275 毛利
- 5月16日(日)
一斉調査打合せとバック試薬配付
清瀬市野塩地域市民センター 13:00
主催：新河岸川水系連絡会
問合せ：048-474-2785 藤井
- 5月21日(金)
東京都清瀬下水処理場見学会
武蔵野線新座駅 13:30
清瀬下水処理場 14:00
主催：新河岸川水系連絡会
申込み：048-474-2785 藤井
- 5月22日(日)
一斉調査打合せと透視度計作成
小金井市民会館
主催：身近な川の一斉調査実行委員会
問合せ：0425-62-8863 倉
- 5月22日(土)
ツバメとイワツバメの観察会
柳瀬川駅サミット前 9:00
主催：志木市教育サービスセンター
生態系保護協会/エコシティ
問合せ：048-472-4131 岩上
- 5月22日(土)
不老川の川づくり町づくり
狭山市人間公民館 13:30~16:30
講師：堂本泰章、山道省三、他
主催：不老川流域川づくり市民の会
問合せ：042-965-1741 相馬
- 5月23日(日)
春の北川クリーンアップ作戦
北川公園民家園 10:00
主催：北川かっぱの会
問合せ：042-391-2365 三島
- 6月6日(日)
身近な川の一斉調査
それぞれの川で 9:00 頃から

- 主催：実行委員会
問合せ：048-474-2785 藤井
- 6月13日(日)
第4回下町河川環境シンポジウム
「授業に生かそう荒川の水辺」
一下町に水辺の楽校を！実践編—
葛飾区東四つ木地区センター 10:00
主催：実行委員会
問合せ：03-3891-4551 野村
- 6月19日(土) 20日(日)
全国水環境交流会
代々木・青少年センター
主催：全国水環境交流会事務局
問合せ：03-3581-2700 事務局
- 6月20日(日)
荒川源流を訪ねる会
主催：秩父の環境を考える会
問合せ：0494-24-8400 熊崎
- 7月3日(土) 4日(日)
第2回「川の日」ワークショップ
代々木青少年センター
主催：同実行委員会
問合せ：03-3408-2466 山道
- 7月18日(日)
落合川・川あそび
秋葉落合川いこいの水辺 10:00
主催：実行委員会
問合せ：0424-72-0882 菅谷
- 8月8日(日)
朝霞・黒目川川まつり
朝霞・黒目川新高橋近く 10:00
主催：実行委員会
問合せ：048-474-2785 藤井



今年も身近な川の一斉調査をします。日本陸水学100年にあたる今年、川の透視度も自分達で作ったクリーンメジャーを使って測ります。多摩川・荒川・新河岸川水系の各地で、おとなも子どもと一緒に、川の汚れの程度や川岸の様子などを調べ、データを集めて発表し、さらにそこから自分達にできることは何かを考えるまたとない機会です。まだ参加したことのない方は、ぜひ一緒に川に行ってみませんか。新河岸川水系の集合場所は18か所の予定です。問合せは 048-474-2785 藤井まで

